品種解説：「ふくひびき」

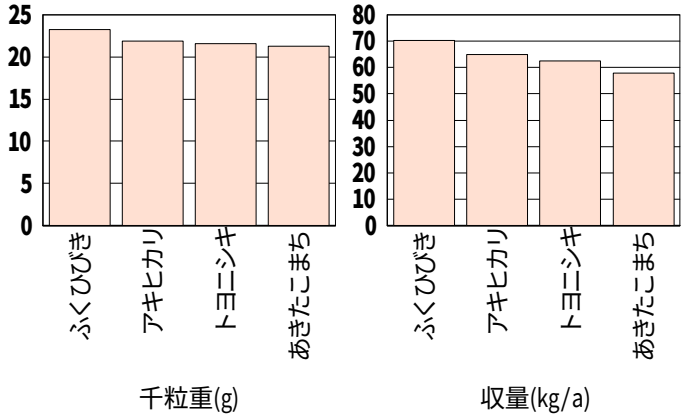
概　要：本品種の耐冷性は「アキヒカリ」「トヨニシキ」と同程度の“やや弱”である。名前の意味は、“普及地帯福島県と片親「コチヒビキ」の名にちなみ、かつ農村に福を響かせたいとの願いを込めていること”を表現する。

１．来歴の概要

草姿がよく、やや大粒で登熟性が優れている「コチヒビキ」を母とし、極強稈、良型、大穂で籾数が多いが、小粒で登熟性のやや劣る「奥羽 316 号」を父として、1982 年に東北農業試験場で交配された。1988 年に「奥羽 331 号」の系統名が付けられ、1993 年に水稲農林 320 号として登録された。

２．形態的特性

・稈　長：「アキヒカリ」並みかそれよりやや短い“短稈”である。
・穂　長：「アキヒカリ」よりやや長く、「トヨニシキ」並みである。
・穂　数：「アキヒカリ」より少ない“穂重型”である。
・粒　大：「アキヒカリ」「トヨニシキ」よりやや大きい。
・千粒重：「アキヒカリ」「トヨニシキ」よりやや大きい（下図参照）。



３．生態的特性

・出穂期・成熟期：「アキヒカリ」と「トヨニシキ」の中間で、育成地では「トヨニシキ」並みの“中生”である。
・収量性：ごく高く、「アキヒカリ」より数%～10%、「あきたこまち」より 20%程度多収である（上図参照）。
・耐倒伏性：「アキヒカリ」並みかやや強い。
・葉いもち抵抗性：「ハマアサヒ」より明らかに強く、「トヨニシキ」よりは劣るが、「キヨニシキ」並みである。
・穂いもち抵抗性：「ハマアサヒ」や「ササニシキ」より明らかに強く、「キヨニシキ」並みかやや強い。
・耐冷性：「アキヒカリ」「トヨニシキ」と同程度である。
・穂発芽性：「アキヒカリ」「トヨニシキ」並みである。

特　性	ふくひびき	アキヒカリ	トヨニシキ	あきたこまち
耐冷性	やや弱	やや弱	やや弱	やや強
耐倒伏性	強	やや強	やや強	やや弱
葉いもち抵抗性	やや強	やや強	強	中
穂いもち抵抗性	中	やや強	強	やや弱
穂発芽性	やや易	やや易	やや易	難

４．品質・食味特性

・玄米の外観品質は粒揃いがよく、腹白の発生も比較的少ないが、乳白、心白がやや目立つ。色沢はやや濃く、光沢が劣るため外観品質は「アキヒカリ」並みである。

・食味は「あきたこまち」「ひとめぼれ」「チヨニシキ」よりは劣るが、「アキヒカリ」「トヨニシキ」に比べても同程度かやや高い。

・タンパク質含量は比較したこれら品種と同程度かやや低い。

５．適地等

・東北中南部および北陸、東海地方の平坦地に適する。

６．栽培上の注意

・耐冷性がやや弱いので冷害の発生しやすい地帯での栽培は避ける。

・いもち病抵抗性遺伝子をもち、一般のレースには侵されないが、真性抵抗性の崩壊は予想され、また圃場抵抗性は中～やや強であるので、発病をみたら一般品種と同様の防除が必要である。

・酒造用掛米を生産する場合は、米のタンパク質含量を高めないため、極端な多肥栽培を避けるほか、実肥の施用を控える。

＜参考資料＞

農林水産省農林水産技術会議事務局（平成５年７月）：平成５年農林水産省育成農作物新品種（夏作物・園芸作物）。